

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で理念については検討できていない	○	地域に溶け込んだ存在になるよう考えていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしく過ごせるよう、職員一同取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	取り組めていない		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域行事に参加したりしている。昨年に続きバザーを予定し地域の方々との交流を図るよう努めている。また、3Fの空いたスペースを地域の方に開放し、利用してもらっている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に参加したり、地藏盆にはお供えをしたりしている。ホームの空いたスペースを外部の方に利用してもらおう等して出て行くだけでなく、ホームに招く働きもしている		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム内の対応で精一杯で余裕がなく取り組めていない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、皆で行い理解している。評価を活かし、改善に向けて新しい事への取り組みは行っているが、評価の改善として計画を立て行うところまではできていない		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告が多く、意見が少ない状況にある。地域の方々もお仕事があつたりと忙しく、ホームが設定した時間帯に会議に出席する事が難しい事もあり、運営自体がなかなかうまくいっていない。	○	運営推進会議を何かの行事にかねかわせて実施するという事で、昨年評価時に意見をもらった事から、行事に合わせる方向で取り組んでいるが、地域行事への参加ばかりを求められ、ホームでの行事に対しての参加は難しくそうにされる状況。出るばかりでなく、来てもらう形も取って行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加は数年前に要請したが、来られていない。それ以外で行き来する機会を作れていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修の案内等はあつたが、人員不足やシフト上の問題から参加できていない	○	参加できる状況が揃えば、是非参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来る限り外部研修等に参加しているが、上記と同じで人員不足やシフト上の問題から毎回は参加できていない	○	出来るだけ研修が開催される際には参加できる職員が参加し、学んだ事をその他のスタッフ間でも共有できる環境を作って行きたい。

グループホームさくら

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、契約書や重要事項を口頭で説明し、十分な説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>表せる機会としてできないが、地域活動の参加や、ホーム行事へ家族・地域の方の参加を募り、なるべく閉鎖的にならないような環境づくりに努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>お便りや、機関紙を通して日々の暮らしや職員の異動について知らせている。請求書宗富士に個人の現金管理を記入したものを合わせて送付している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱の設置。日ごろからコミュニケーションをとることを心がけ、何でも言い合える関係作りに努めている。介護相談印の受け入れもしたことがある。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に1～2回程度、運営者とスタッフとで話をする機会を作っている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>予め分かっている受診に関しては、当日のスタッフ数を多くしている。必要な時間にその時間だけ出勤したりもしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やめる人は仕方がないという考えも一部持っているが、何が原因かやめたい原因を聞き、改善できる点があれば改善の方向で検討する等している。</p>	

グループホームさくら

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>計画は特には示されていない。日々の業務を行うのみで法人内外の研修はできていない</p>	<p>○</p> <p>行ってほしい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>していない</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ一人一人と面談をする機会を設けたり、人員不足などでスタッフがしんどいとき等、寸志という形でみんなの頑張りを支える等して、工夫はされている。</p>	<p>○</p> <p>その都度、その都度一時的なものではなく、継続してストレスの軽減となるような何かを考えてもらえたら嬉しい</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>分からない</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談をして話を聞いている。家族からも本人さんについての話を聞くなどしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>している。入所後も初めのうちは本人の様子を伝えると共に家族からの話も聞いている</p>	

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聞き、必要に応じて他のサービス利用も含め支援するよう努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらっている。入所間もなくはご家族の方に小まめに面会に来てもらうようお願いしたり、なじみの家具を持ち込むなどし環境を整え、他の利用者との間にスタッフが入り、会話をつないだり早く馴染めるよう配慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事を共に行い、調理の仕方や昔ながらの知恵など教えてもらいながら行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを取る事で、家族の置かれている立場を理解し、想いを知る努力をしている。行事等できるだけご家族の参加を募り、同じ時間を共有することで喜怒哀楽を共にし、家族の想いを知り本人を支えあえる関係作りに努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の話やご本人の話を聞きながら、関係の把握に努め良い関係が築いていけるよう間に入り、両者を繋ぐ支援をしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域ではなく、離れた場所から入所している人も居るため、それまでの馴染みの関係継続が難しい事実もある。個別の外出などで、本人の希望の場所に外出する際、入所前いた場所へ行きたいと言われる方には特別な事情がない限りは対応し支援に努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入り、利用者同士の関係がうまくいくよう支援している。		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後もホームの行事にご家族や利用者の方をお誘いしたり、必要に応じて相談にも応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から一人ひとりの思いを把握できるよう努めている。希望する暮らし方についても、生活歴やご家族の意見をもとに、本人の立場に立って検討したり、意向の把握には努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から聞いたりしたことを、アセスメントに記入し把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	関わりの中から心身状態の変化や有する能力について学習し、カンファレンスなどで職員同士意見交換し現状の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人に聞いたり、自分から言えない方は日ごろの発言や行動から想いを把握しカンファレンスを行っている。また、ご家族の意見を反映したり、主治医の助言も視野に入れ、必要に応じて介護計画に活かしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをし、スタッフでカンファレンスを行っている。見直しをし、これまでと現在の違いの説明新しい計画になった理由など文書でお知らせし、ご理解頂いている。		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録を付けケアの実践、気づきや変化など記入し、スタッフ全員で共有できるようにしている。また、ケアプランの実施表を作成し、スタッフ全体でプランの把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日ごろ家族が受診の付き添いをしている利用者の方において、家族が急用で付き添えなくなった場合など、臨機応変にホームで対応したりしている。また帰宅願望が強い利用者の方に対しては、付き添い外出をするなどの対応をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の際、ボランティアの方に来ていただいたり、避難訓練の際に消防署の方に協力してもらったりしている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の老人会(生きいきサロン)に週一回参加しているがケアマネやサービス事業者との話し合いはしていない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して助言などもらっている。協働は出来ない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携先病院での診察を希望される方は2週間に1度の往診で対応し、緊急時には受け入れ体制が整っている。また、希望する病院が別の病院の場合は、利用者様のご希望の病院へ受診してもらっている		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携先病院の医師や看護師と相談連携を図っている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの職員として看護師が在籍しており、提携病院の看護師とホーム内看護師の両方と相談しながら、日常の健康管理を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来る限り行っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の事については、必要と思われる利用者の方のご家族とその都度相談はしているが、かかりつけ医を含めた話し合いを繰り返し行っておらず、終末期のあり方についてはほぼ取り組めていない。	○	個々に今後、重度化した場合について等の話し合いの場を定期的に設けて行き、ご家族や本人の意向を踏まえ相談・情報提供など必要に応じて行っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	とりくめていない	○	出来ること・出来ない事をホームの方針として定めるところから取り組んでいきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必要に応じて、本人に伝え足り少しでも不安が軽減するような言葉掛けや対応に努めている。新しい場所に早く馴染めるよう、細かな情報提供を行い、利用者本人を支える支援をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は鍵のかかる場所に保管している。排泄に関して等、出来る限りプライバシーに配慮した対応・言葉掛けに気を配っている。	○ 排泄に関してのスタッフ間のやりとりで声が大きくプライバシーを損ねるようなときがあるので、注意を繰り返しスタッフ全員が意識して注意できるようにしていきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人個々に合わせ、伝わりやすい言葉を選んで話しかけたり、何が伝えたいのかを理解出来るよう、本人の動きや表情から読み取ったりしながら関わっている。希望の言える人には、選択できる場面では自己決定してもらえるよう、どうしたいか尋ねたりしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で介助量の多い人から入浴したりしてしまっている。買い物等利用者同士のレベルの違いや性格の違いでグループに分けて行動してもらったりする。突発的な買い物の希望でも出来る限り希望に沿うよう対応している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	これまで行きつけだったお店が遠くなり、行き着けだった場所へは行けない人もいるが、希望に合わせてホームの近くで本人の希望する場所へ出掛けている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際に、何が食べたいか尋ね、献立に組み込んだりしている。買い物にもいける人と一緒に行き、食材選びを共に行っている。野菜切り、味付けなど全て一緒に行い、片付けも利用者を主体に行っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の希望で歌詞の購入やタバコなど、ホームで預かり希望時や必要に応じて提供している	

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排尿間隔や尿量を把握するため、必要に応じて排泄表をつけそれぞれにあったパット等の使用やトイレ誘導の時間を決め対応している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助が必要な方や自分で入りたいかどうか意思がはっきりしない方に関しては、ホームで曜日を設定し曜日ごとに入浴してもらっている。曜日以外でも希望があればその都度可能な場合は入浴してもらっている。自立して入れる方は毎日入ってもらっている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	リビングにソファを置き、座りながらでもゆっくり過ごせるスペースを作っている。また、日中ウトウトされる方等は必要に応じて、居室短時間横になるなどしてもらっている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の得意分野や出来る力に目をむけ、役割ややりがいを持って取り組めるよう、日常の家事や洗濯、作業やレクリエーションなど声掛けをしたりサポートしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に小銭入れを持っている利用者もいるが、買い物時はホームでお預かりしているお小遣いから支払いをさせてもらっている。(金銭管理簿などややこしくなる)買い物時に理解できる方にはお財布を渡し自分で支払うという動作をしてもらっているが、出来る方が少ないのが現状である。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿ってその都度の外出は難しい状況であるが、利用者の○○が買いたいという希望があれば、出掛けられる時に一緒に出掛け購入するようにしている。お天気が良く、スタッフに余裕のある際にはお散歩などにも出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前はご家族の方が一泊旅行に連れて行って下さっていた利用者もいたが、認知症の進行と共に厳しく現在は実施されていない。必要な方は個別外出で普段行けない場所への外出を計画したりしている。また、遠足として遠出の外出レクを行ったりしている		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際、自由に電話を利用してもらっている。また、はがきや手紙を書く利用者の方には本人に代わって職員がポストに投函する等している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めず、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。面会時には、必要に応じて職員も会話の間に入ったり、意思疎通が難しい方との交流の橋渡しをしている。また、出来るだけご家族にも参加いただける行事を計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し研修報告を全員が見る事で、少しでも知識として把握はしているが、それでもまだ細かな部分までの理解は出来ていない部分があると思われる	○	外部研修に合わせて内部研修など行い、ホーム全体で勉強し知識向上に努めていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特定の他者の居室へ入り、室内のあらゆるものを自室へ持って行ってしまう方が現在入所中の為、居室に入られてしまう利用者のご家族に対して了承を得て、日中は(ご利用者本人は殆ど居室に戻らないこともあり)鍵をかけさせてもらっている居室が一つある。その他の居室において、利用者本人が内から鍵をかける以外昼も夜も鍵をかけないが玄関は国道に面しているという点が危険な為かけている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はどの入居者が今どこにいる、何をしているなどスタッフ全員で入居者への目配りをし、スタッフ同士で声の掛け合いをしている。出来る限り言葉で行動を抑制したりするのではなく、動きを見守り危険等その場の状況に応じてさりげない声かけを行っている。夜間は2時間おきの巡回をしたり、トイレ時必要に応じて付き添い転倒防止に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人がその物品を必要としている時に危険性のあるものは柔らかく使い方を伝えたり、傍で見守りながら一緒に使用して頂いたりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に二回避難訓練を行い、消防の方からの指導をもらい火災については学んでいる。また、職員が順番に防火管理講習を受ける事で火災についての知識を増やしている。誤薬は3段階で確認をし、事故防止に努めている。	○	窒息や行方不明などに関して、事例を元にホーム内で勉強会などとしていきたい

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホームから研修としては行えていない	○	研修や講習に行き学び、ホーム内でも勉強会などする必要がありと思われる
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定しての避難訓練は年2回行い、利用者の避難方法など話し合っている	○	火災以外の災害について検討、地域の人々の協力を得られる働きかけをする必要がある
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員で対応策を話し合い実践している。家族にはあまり伝えられていない	○	リスクについて職員だけでなく、家族も一緒に話し合い考えていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	できている。毎日決まった時間にバイタルを測り、各自の記録もつけ異変に気付けるように対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。提携病院からの薬処方表を確認したり、医師や看護師に聞いたりもしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ体を動かしたり、食べ物も野菜を多く取り入れるなど工夫している。それでも便秘な方は薬で調整している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全員毎食後ではないが、朝晩は全員行っている。それ以外では誤嚥性肺炎にかかった事のある嚥下機能が低下している方については、毎食前後の口腔ケアを実施している		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共にチェック表に記入し把握している。咀嚼の力に合わせて刻んだり嚥下困難な方にはミキサーをかけて摂取しやすいように支援している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いがいの徹底を行う。毎日トイレを洗浄、消毒している。その他手すりなどの消毒も必要に応じて行っている	○	感染症の知識を勉強会などで再確認していきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1日1回はまな板、布巾、包丁などの消毒を尾kなっている。調理の都度食品の品質を確認している。また、使い捨て手袋の着用をしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板を新しく作り、ホームがある事が分かるよう配慮した。	○	外壁にプランターを飾り、花を植えたりしていたが、利用者の重度化により余裕がなくていけないので、家庭的な雰囲気を作り出せるよう対応したい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に季節に合わせた装飾をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビを見ながらゆったり過ごせるように大きなソファをおいたり、玄関入り口にも椅子、階段の踊り場にもソファを置いている。利用者は思い思いの場所でくつろいで過ごしている	○	庭先に椅子を置き、花や景色を楽しめる場所を作りたい

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や置物を持って来てもらい、設置している。見慣れたもの、使い慣れたものを身近に置くことで心地良く過ごせるよう工夫している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングに空気清浄機を設置している。朝の掃除の時間には毎日窓を開け、換気している。除湿・加湿・空気正常を行っている。また、浴室と脱衣場の温度差をなくすため、温風ヒーターを置く等している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段の通路には、手すりを設けている。危険のない程度の段差をつけることにより、身体機能の維持を図っている。リビングや階段の踊り場に休めるようソファを置いている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人分かる力を把握し、出来るところまでの準備をしておくなどし、混乱や失敗を防いでは1つずつ団塊を置いて声掛けをする等し、分かりやすく伝えている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で野菜を育てたり、植物を育てたりしている。土いじりしたりできない人も目で見て楽しんでもらえるような環境にある。実のなる木があるので皆で収穫したりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームさくら

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

共同生活の中でも、一人一人の個性を大切に捉え、思いを知る事のできる関わりを目指し、コミュニケーションをとったり、家族の方からお話を聞くなどしている。できるだけご利用者とそのご家族が交流できる場を設けられるよう、行事にはご家族の参加をつのるようにしている。